

街なみ環境整備事業の実状の把握とそれに基づく大川市小保・榎津地区のまちづくりに関する考察

九州産業大学工学部 学生会員 上野 海
九州産業大学工学部 正会員 山下 三平

1.はじめに

1-1 背景

福岡県大川市は木工業を基幹産業とし、かつては日本一の生産量を誇った家具のまちであり、歴史的なまちなみを残している(図-1)¹⁾。

しかし現在、木工製品の需要の減少、地域人口の減少、空き家の増加が顕在化し、産業とまちなみは徐々に衰退の一途をたどっている。歴史的なまちなみの残る地区でも空き地が目立ちはじめた。まずはそのような地区の再生が、大川市のまちづくりにおいて不可欠である。



図-1 福岡県大川市 小保・榎津地区

1-2 目的

本研究では、大川木工業発祥の地である小保・榎津地区のまちづくりを考える。そのために、全国に関連事業を調査する。また、この地区のまちなみを現地調査する。それらに基づいて本地区のまちづくりの要件を考察することを目的とする。

1-3 研究の流れ

まず、大川市に関する歴史を、市誌で調べた²⁾。つぎに、都市計画課と民間のまちづくり団体のヒアリング調査を行い、まちづくり事業を把握した。そのうえで全国で実施されたまちづくり事業にメール/電話調査を行った。また小保・榎津地区のまちなみを現地調査し、GIS を用いてファサードの建築物の現状を表示・分析した。以上に基づいて、今後の小保・榎津地区の改善の方向について考察する。

2.小保・榎津地区の概要と関連事業

小保・榎津地区は久留米と柳川の藩境に位置した。木工業の始祖である榎津久米之介が地名の由来である。当地区には、旧吉原家住宅や旧緒方家など江戸時代に建立の建築物や寺社が数多く残る。

まちづくり団体は複数ある。とくに「藩境のまちづくりを考える会」³⁾は、小保・榎津地区に密接な関係を持っている。市が実施する「街なみ環境整備事業」⁴⁾の協力のために、かわら版で事業紹介やアンケート調査をしている。

2009~2014年に「まちづくり交付金」により、道路美化や休憩所の建設が行われ終了した。現在はそれを引き継ぎ、「街なみ環境整備事業」が開始された。

3.調査結果

3-1 街なみ環境整備事業

全国の「街なみ環境整備事業」をメールと電話で調査した。事業完了地区は2015年12月現在、全国で207地区である。このうち143地区の69.6%から回答を得た。平均実施面積は28.6haであり、小保・榎津地区の2倍弱である。

図-2は実施内容を集計したものである。道路美化(82.6%)、公園の整備(71.0%)、および建造物の修理修景(62.3%)が6割をこえ目立つ。景観の改善に役立つ電線・電柱の整備(地中化)(18.8%)と2割以下と少ない。

一方、小保・榎津地区の街なみ環境整備事業の施工面積は15.6ha、事業期間が2014~2023年である。現在は歴史的建築物が集中する地区中央の道路の美化を行っている。

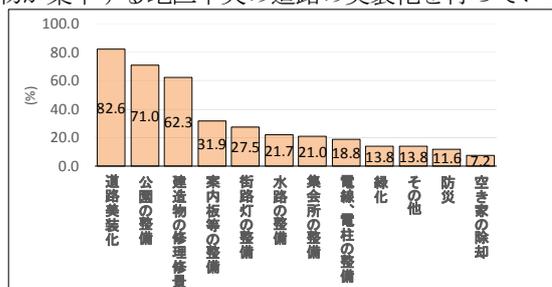


図-2 全国の街なみ環境整備事業の整備内容

3-2 小保・榎津地区の現状と課題

2015年10月29~30日に、建築物のファサードと用途を現地調査した。その結果を図-3~15に示す。まずトタン壁(27.2%)、サイディング壁(25%)がそれぞれ約1/4を占めている(図-3)。トタン壁は当地区でよく利用される造りだが、サイディング壁は造りが比較的新しいため、木工の町では浮いてしまう。壁の色は白色(41.6%)が4割以上を占める。また茶色(24.8%)が1/4である(図-4)。屋根の色は黒色(44.9%)と灰色(35.3%)といった落ち着いた色合いが合計で80%以上に上る(図-5)。建物の用途は民家(51.3%)が約半数を占める(図-6)。

以上の空間分布を知るために、事業が計画された計画街路と、まだ計画されていない未計画街路の2つに区別した(図-7)。計画街路には旧吉原家住宅(図-8)といった歴史的建造物があるが、未計画街路では色合いの不適と思われる壁の建築物が点在する(図-9)。老朽化の進んだ建築物もあり、破損の箇所が目立つ(図-10,11)。壁の種類は、サイディング壁が36%の計画街路に比べ、未計画街路は64%と2倍に上る(図-12)。用途に関しては、作業所が計画街路で79%、未計画街路で21%である(図-13)。壁色は未計画街路で緑(71%)、橙(64%)および赤(61%)が6割を超える(図-14)。また屋根色は青色が計画街路で27%、未計画街路で73%、赤色が前者で34%、後方で66%であり、後者に目立つ色が多い(図-15)。

上記のように、全国の街なみ環境整備事業の実施内容として、道路美装化、公園の整備、建造物の修理修景が特に多く、電線・電柱の整備は少ない。小保・榎津地区では計画街路となる地区中心部は道路美装化が完了しつつあるが、現段階ではそれ以外の事業計画が進んでいない。また老朽化の激しい建築物も存在する。今後は事業の重点を建造物の修理修景に移していく必要がある。また、計画街路には電線・電柱が存在し、歴史的なまちなみを崩す要素である。全国の傾向にとらわれずこの課題に取り組む必要がある。

未計画街路での一番の問題は、建物の奇抜な色にある。全国でもっとも多い道路美装化よりも、この街路沿いの建物の色の修景が先決ではないだろうか。なお、当地区には公園が2カ所ある。これも全国の傾向に拘らず、優先順位を十分考慮する必要がある。



図-3 壁の種類

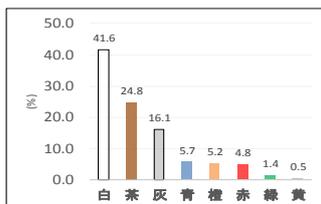


図-4 壁の色

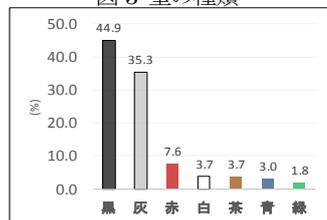


図-5 屋根の色



図-6 建物の用途



図-7 計画の範囲と街路



図-8 旧吉原家住宅



図-9 緑の壁の建築物



図-10 老朽化した建築物①



図-11 老朽化した建築物②

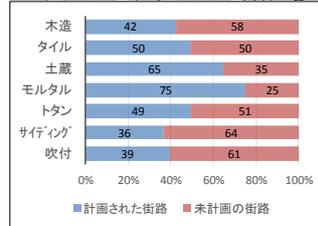


図-12 壁の種類と比較

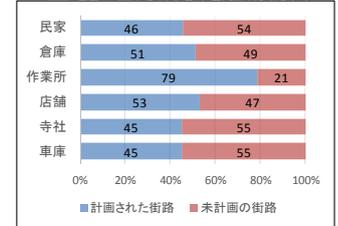


図-13 建物の用途と比較

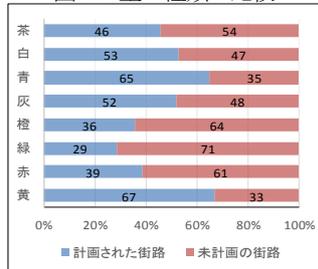


図-14 壁の色の比較

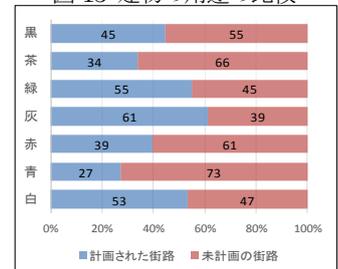


図-15 屋根の色の比較

4.まとめ

本研究では、全国で実施された「街なみ環境整備事業」を参考に大川市小保・榎津地区で実施されている事業内容と街路の現状について把握した。その成果を以下に示す。

- 1) 全国では道路美装化、公園の整備、建造物の修理修景の順で実施率が高い。小保・榎津の計画街路でも現在道路美装化を実施している。建物外壁の現状を踏まえ、色彩の統一と材質の改良を、今後は早急に検討・推進する必要がある。
- 2) 当地区の計画街路には電線・電柱が存在する。その地中化は全国で18.8%の実施率である。全国の低い実施率にとらわれず、積極的な実施が望まれる。
- 3) 未計画街路は計画街路に比べ奇抜な色の建築物が2倍程度であり多い。広く歴史的なまちなみを取り戻すために、この区域においても外装の素材と色彩にいつもの配慮が必要である。

(参考文献)

- 1) 福岡県大川市『大川市観光なび』
<http://www.city.okawa.fukuoka.jp/kankou/k002/020/050/20150416094536.html>
- 2) 大川市:大川市史 pp.377.1977.12
- 3) 公益社団法人全国市街地再開発協会『街なみ環境整備事業って?』
<http://www.uraja.or.jp/town/knowhow/machinami.html>